

目次

- 「語り部のつどい 2017」を開催！ … P2
- 「かば先生文庫」が寄贈5周年 … P3
- 「理科読（りかどく）」のすすめ
- 明治150年シリーズを実施中！
- 県立図書館からのお知らせ … P4

※緑陰通信は県立図書館のホームページ
(<http://www2.lib.pref.miyazaki.lg.jp/>)からもご覧いただけます。

「日本一の読書県」づくり 関連企画

トークセッション 私のすすめるこの一冊 ～高校生の声～

を開催しました！

県立図書館では、県民の誰もが生涯にわたって読書に親しむ「日本一の読書県」づくりに向けた取組に関連する企画として、県内の高校生を対象に「おすすめの一冊」を広く募集しました。

その結果、25校・565名の高校生から応募があり、選考の上、入選者10名を決定しました。

そして、平成29年12月3日(日)、入選者のうち4名を招き、トークセッション「私のすすめるこの一冊～高校生の声～」を開催しました。

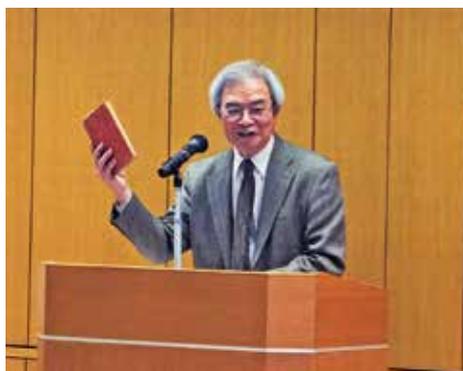
当日はまず、伊藤一彦名誉館長（歌人）による「私と本の出会い」と題する講話からスタートしました。



高校生のころの自己凝視（自分自身を深く見つめること）が読書のきっかけになったこと、大学に入って友人からの影響を受けて短歌の世界に入ったこと、読んでいると書きたくなっていくことなど、ユーモアにあふれ興味深い内容の経験談を存分に聞くことができました。

講話のあとは、4名の高校生によるそれぞれの「おすすめの本」についての発表と、伊藤名誉館長との対談へと続きました。

一人ずつに「おすすめの一冊」を読んだことから得られた感動や体験、読書への熱い思いなどを発表していただくとともに、伊藤名誉館長との対談を通じて発表内容をさらに深め、会場全体で分かち合いました。



延岡高等学校2年 黒木寧乃さん：重松清著『十字架』

いじめにより自ら命を絶ったクラスメイトの遺書に名前が書かれていた4人の、その後の心の迷いや成長を描いた作品。黒木さんはこの本を中学生の時に初めて読みましたが、高校生になって読み返したときに、初めて読んだときにはわからなかった新たな気づきを得られ、何年後かにまた読み返してみたいそうです。なかなか答えの出ない重いテーマに真摯に向き合う姿勢の感じられる発表でした。

宮崎南高等学校1年 脇岡由杏子さん：さだまさし著『風に立つライオン』

アフリカの病院で「国境なき医師団」の一員として働く日本人医師の姿を描いた作品。県立日南病院の院長も勤めた柴田紘一郎さんが主人公のモデルとなっていることでも知られている作品です。脇岡さんは、幼い頃からご両親の働く姿に影響を受け、将来は主人公と同じように多くの人の役に立つ仕事に就きたいそうです。しっかりした目標を持っていることを強く印象づける発表でした。

五ヶ瀬中等教育学校4年 澤田若奈さん：佐野徹夜著『君は月夜に光り輝く』

不治の病に冒された少女と出会った少年が、少女の「死ぬまでにやりたいこと」を本人に代わって叶えていくうちに少女に惹かれていくという物語です。澤田さんはこの本をたまたま選び取って読んだのですが、生きることをあきらめかけていた少女を初めて「生きたい」という気持ちにさせてくれた少年との純粋な心のふれあいに感動したそうです。本との出会いの素晴らしさを感じさせる発表でした。

延岡しろやま支援学校高等部1年 橋口侑果さん：井上美由紀著『生きてます、15歳。』

体重わずか500グラムで生まれた全盲の少女が母と2人で成長していく物語です。橋口さんは、少女の将来を考えて厳しく、でも時には優しく育てる母の愛と親子の絆に感動するとともに、自分のご両親の想いに気づき、「私はあるのままでいい」と思うようになり、今でもこの本が心の支えになっているそうです。「障がいのある人もない人もお互いにもっと認め合い、楽しく生きていける社会をつくりたいです。」という橋口さんの思いも印象に残る発表でした。

読書を通じて高校生が得た、かけがえのない思いが伝わってきますね。みなさんの今後のご活躍をお祈りしています。

なお、当日は、歌人の俵万智さんも急きょ参加いただき、ご自分の読書への思いを伝えていただくなど、大いに盛り上がるトークセッションとなりました。読書量減る世代ともいわれる若者たちの熱い思いとともに県民一人ひとりの読書活動がますます進むことを願ってやみません。



「語り部のつどい 2017」を開催！

平成29年12月9日(土)に、「語り部のつどい 2017」を開催しました。昨年度の開催に引き続いて2回目となります。県内で神話や民話の語り部活動に取り組む方々をはじめ、神話・民話に関心のある方など、延べ126名の参加があり、語り部同士の親睦を深めたり語り部の技能向上を図ったりすることができた有意義な場となりました。

まずはじめに、「未来へつなぐみやざきの神話・民話継承人財育成事業」の語り部養成講座を修了された2名（長嶺裕子氏、松浦裕氏の両名）の語り部による語りの実演を楽しみました。



続いて、県立看護大学教授の大館真晴氏の進行によるパネルディスカッション「語り部のいま、これから」では、みやざきに伝わる豊かな言語文化・伝承をいかにして次世代へつないでいくか、「語る場」をどう開拓していくかなど、さまざまな課題について活発で充実した討論が展開されました。



後半は、埼玉大学教授の飯泉健司氏により「神に人の心を～日向神話の役割～」と題してご講演いただきました。

日向神話の神々は、神的な側面と人間的な側面の二つがあり、神から、情・苦悩・社会性などを伴う人間的な存在へ転換させる役割などを担ったものであるという内容を、楽しくユニークな語り口でお話しになりました。

参加者からは「日向神話を通してその役割について、面白く説明があり、未来へつなぐみやざきの神話を重々理解することができました」、「本日のつどいで、勇気・やる気・元気をいただきました。コツコツですが、続けていきます。読み聞かせから語りへとがんばっていきます」などの感想をいただきました。

ご参加いただきました全ての皆様、ありがとうございました。

県立図書館では、今後も宮崎の神話・民話の普及・啓発を図り、宮崎の言語文化継承の一助となるよう事業に取り組んでまいります。



「かば先生文庫」が寄贈5周年

「かば先生」は、宮崎市内の小児科医、佐藤雄一氏（享年64歳）の愛称です。かばのグッズを集めることが好きだったことからそう呼ばれていたのだそうです。

佐藤氏は、読み聞かせの大切さを伝えたいと、病院でたくさんの絵本を来院者に貸し出されていました。佐藤氏の急逝後、ご遺族が意志を継がれ、子ども向けの本を毎年県立図書館に寄贈してくださっています。

寄贈いただいた本は「かば先生文庫」と名づけ、児童図書室などで活用させていただいています。



このたび、最初の寄贈から5周年を迎えたことから、佐藤氏とご遺族への感謝の意を込めて、平成29年12月12日（火）に「かば先生文庫寄贈5周年記念おはなし会」を実施しました。おはなし会には、佐藤氏の奥様の保子さんらご遺族をお招きし、あらためてお礼を申し上げるとともに、参加した宮崎大学教育学部附属幼稚園の園児や利用者みなさんに向けて、児童室担当職員が「かば先生文庫」の本を使った読み聞かせを行いました。子どもたちは、笑ったりじっと絵を見つめたりして、絵本の世界を楽しんでいました。



奥様の保子さんからは「子どもたちが絵本を読んでもらっている時は、普段は見せない表情をする。絵本との出会いの時間を大切にしてほしい。寄贈した本を活用して、親子の絆を深めてほしい」というお言葉をいただきました。

これからも宮崎の子どもたちが「かば先生文庫」をはじめとして多くの本に触れて、すくすくと成長していきますように。



「理科読(りかどく)」のすすめ

子どもたちに科学のおもしろさや科学の役割を伝え、科学や理科に対する好奇心や学ぶ意欲を育む取組のひとつに「理科読(りかどく)」があります。

県立図書館ではその取組を広めようと、小学生を対象として、科学に関する本の読み聞かせと理科の実験を合わせた「理科読出前授業」を実施しました。

講師は、全国各地の小学校等を訪れていらっしゃるNPO法人ガリレオ工房の土井美香子氏でした。1回目は夏休み（8月）に、光にはなぜ色があるのか（光の性質）について、2回目は冬休み（12月）に、光が見える不思議（光と影のちがひ）について、授業をしていただきました。

子どもたちは疲れも見せず、目を輝かせて実験に打ち込み、結果に歓声を上げ、読み聞かせに耳を傾けていました。「楽しかった」「また来たい」「本がおもしろかった」など、うれしい感想の声が寄せられました。

2回目では、理科読の普及と人材養成を目的とした、出前授業風景の見学と研修会も実施。県立図書館から理科読を発信していければと考えています。



明治150年シリーズを実施中！

平成30年（2018年）は、明治元年（1868年）から150年目にあたります。日本は、明治維新以後から、近代国民国家の建設に向けて欧米諸国の制度を学びながら国の基礎を築いてきました。

近代化の歩みを重ね「明治150年」の節目を迎える今年は、「明治の歩みをつなぐ、つたえる」をスローガンに、さまざまな取組が全国各地で実施されています。

県立図書館もその一環として、1階閲覧室入口に「明治150年シリーズ」の展示コーナーをつくりました。第1回は、幕末から明治初めに活躍した飢肥藩の平部嶠南が著した『嶠南日誌』の中から「明治改元」と「大政奉還」についてご紹介しています。薩摩藩の小松帯刀が15代将軍慶喜に大政奉還を進言する際の態度が「傍若無人」だった、という興味深い記述も見られます。



今後も、さまざまな資料をもとに明治時代の郷土情報の発信に努めますので、どうぞご期待ください。

県立図書館からのお知らせ



■ 図書の案内コーナー

〔館長おすすめの本〕



「ギリシア人の物語Ⅰ～Ⅲ」 塩野七生／著（新潮社）

紀元前6世紀に古代ギリシアが編み出した民主政。政治も経済も文化も黄金期を迎えた後にポピュリズムにより急速に衰退。その後、アレクサンダー大王が築いたグローバルなヘレニズム世界。現代社会が抱える課題にも通ずる塩野七生氏最後の歴史長編。

〔新着図書紹介〕



「神秘の絶景写真 アメージング アース」

クロニクルブックス・ジャパン／責任編集（クロニクルブックス・ジャパン）

ピスティ・バッドランズ、デッドフレイ、九フン、ワカチカ、ボラボラ島、伏見稲荷大社・・・。自然景観や建築物など、世界中から163ヶ所に及ぶ神秘の景観を収録した絶景写真集。（トーハン書評より）



「AI vs. 教科書が読めない子どもたち」 新井紀子／著（東洋経済新報社）

日本の中高校生の多くは、中学校の教科書の文章を正確に理解できない。多くの仕事がAIに代替される将来、読解力のない人間は失業するしかない・・・。気鋭の数学者が導き出した、最悪のシナリオと教育への提言。（トーハン書評より）

<ミニ調べ方ガイド>

県立図書館のレファレンスカウンターでは、みなさまの調べもののお手伝いをしています。ここでは、調べものに役立つ資料についてご紹介します。

今回は図書館の資料 『宮崎県郷土紙デジタルアーカイブ』

宮崎県の郷土紙（宮崎新報・日向日新聞・宮崎日日新聞など）を明治26年8月分から見ることができます。キーワードでの記事検索はできませんが、過去のできごとを調べるのに当時の新聞は重要な情報源となります。

閲覧は無料、複写は有料です。（白黒のみ・一枚10円）

調べものにも活用できますが、たとえば喜寿、米寿といったお祝いや記念として、生まれた日の新聞記事などはいかがでしょうか。（新聞には一部欠損、休刊日等もございますので、ご了承ください。）

県立図書館ホームページ「レファレンス（調査相談）」→「調べ方ガイド」もありますので、どうぞご利用ください。



県立図書館ホームページ



4月23日は「子ども読書の日」です。子どもの読書活動についての関心と理解を深め、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めることを目的に「子どもの読書活動の推進に関する法律」で定められているものです。

県立図書館では、毎年この日の前後約4週間（平成30年は4月17日（火）～5月13日（日））を「**こどもの読書週間**」として、親子で楽しめる絵本の読み聞かせや工夫をこらした企画展示、ミニイベントなど、子どもたちが本を好きになって読書の喜びを感じてもらえるような催しを行っています。ぜひ、みなさまで来館ください！



県立図書館の資料の購入には、宝くじの収益金の一部が使われています。 宮崎県

ご利用案内

開館時間 ■一般閲覧室：9:00～19:00
■児童図書室：9:00～17:00

休館日 ■毎週月曜日（祝日の場合翌日）
年末年始：12/29～1/4
特別整理期間：2月下旬

編集・発行

● 宮崎県立図書館

住所 ■〒880-0031 宮崎市船塚3丁目210番地1
TEL ■0985-29-2911（総務・企画課）
FAX ■0985-29-2491（総務・企画課）
HPアドレス ■<http://www2.lib.pref.miyazaki.lg.jp/>

